

重点1 毎日の授業の充実 / 7A 体験活動（自然教室の実施状況）

ねらい

自然教室は、野外活動を通して自然に触れる楽しさを味わうとともに、集団生活を通して人間的なふれあいを深め、相互の理解と信頼を高めることを目的としています。

この事業は、公害対策の一環としてスタートした「みどりの学校」を母体として、昭和47年度に小学校6校の6年生587名が参加して行われました。昭和61年度からは、文部省自然教室推進事業を含めた現行の事業が始まり、以後、基本的には、市内小・中学校各1学年を対象に現在の形で実施してきました。平成10年度からはすべての小・中学校が市の単独事業となり、本年度で12年目になります。

現状と課題

○ 平成21年度の実施状況

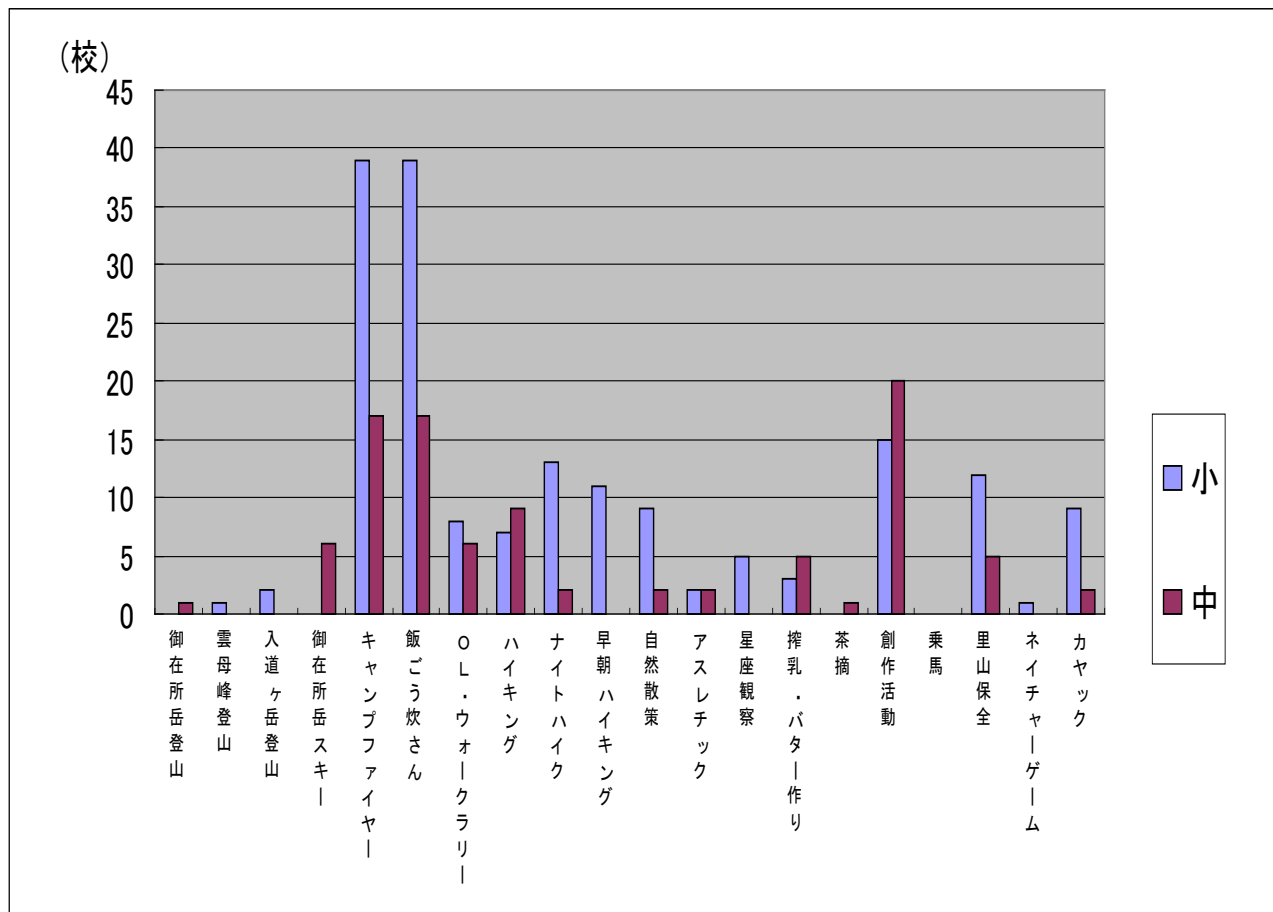
<施設利用状況>

利用施設名	小学校	中学校
四日市市少年自然の家	40校 3090名(1泊) 【5/20~12/9】	20校 4367名(2泊) 【4/22~2/20】
鈴鹿青少年センター		4校 1591名(2泊) 【5/28~6/11】
国立乗鞍青年の家		1校 306名(2泊) 【2/10~12】

※1, 2年生実施校:3校

○ 平成21年度の実施状況

<主な活動状況（実施校数）>



## 第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための基本

### (1) 活動事例

- ・ すべての小学校が四日市市少年自然の家を利用し、実施しました。新型インフルエンザや暴風警報の影響で延期した学校が3校ありますが、四日市市少年自然の家の配慮もあり無事に終了しました。
- ・ 中学校では、生徒数（収容能力）の関係等で、4校が鈴鹿青少年センター、1校が国立乗鞍青年の家を利用しました。
- ・ 中学校では、集団づくり、仲間づくりに重点がおかれることから、全ての学校で1年生が実施しました。次年度からの移行も考え、1、2年生の実施校は3校でした。
- ・ 小・中学校とも、ほとんどの学校が飯盒炊さんやキャンプファイヤー等、仲間と協力して一つのものをつくり上げる活動を取り入れています。
- ・ 小・中学校では、里山保全、自然散策、ハイキング、星座観察、ネイチャーゲーム、オリエンテーリング、カヤック体験等の自然と親しむ活動が多く盛り込まれています。登山を実施した学校は、小・中を合わせて5校でした。
- ・ 中学校では7校（四日市市少年自然の家：6校、国立乗鞍青年の家：1校）が冬季にスキーを中心とした活動を行いました。

### (2) 主な成果と課題

- ・ 小学校では、「里山保全の事前学習や体験活動を通して環境保全に対する意識が高まった。」「天候に関わらず、自然に触れる活動を通して自然の優しさや厳しさを学ぶことができた。」「声をかけ合い、励まし合いながらウォークラリーや登山をしたり、役割分担をして飯盒炊さんに取り組んだりする中で、互いに支え合う仲間作りを深めることができた。」「自然の中で活動し、そこでしか得られない達成感や満足感は児童の今後の生活に役立つものとなったと思う。」等の多くの学習の成果がありました。
- ・ 中学校では、「集団生活を通じて、ルールを守ることや時間に遅れないこと、話を聞く態度など規律面や安全面での指導を徹底することができた。」「生徒同士の人間的なふれあいを深め、相互理解と信頼を深めることができた。」「企画・準備・運営などの係活動を行い、自主性、積極性、責任感をもって活動に取り組む姿勢を養うことができた。」等、発達段階に応じた成果がありました。
- ・ 御在所スキー場でのスキー実習では、昨年度に引き続き、四日市スキー協会並びに三重県スキー連盟の協力を得て、充実した活動が行われました。インストラクターの方々の専門的な指導により、スキー初体験の生徒も滑ることができるようになり、スキーを楽しむとともに、自然の美しさを体感することができました。
- ・ 「きめ細やかな打ち合わせがもっと必要だった。」「事前打合せや調整に苦労した。」「時間的なゆとりのある計画を立てるべきであった。」等事前指導や計画について課題があげられています。

### 今後の方向性

- 自然教室で子どもにどのような活動をさせることで、どのような力をつけさせたいのかを明らかにすることが必要になっています。また、自然教室を通して学んだことを学校生活・教科学習・道徳・総合的な学習の時間（環境学習等）に関連付けて発展・定着させていくことが大切です。
- 自然に働きかける野外での活動が増えた反面、雨天時における計画や準備が必要となってきています。雨天時の活動はレクリエーションや創作活動であると固定して考えるのではなく、雨天時でもできる自然体験活動を考えていかなければなりません。また、冬季実施においても、スキー場でのスキー実習だけでなく、自然観察、散策等の体験活動を考えていく必要があります。
- 発達段階や子どもの実態に応じた、より有効な活動内容等を考慮していく必要があります。そのために、自然教室の指導・企画・実施の面において教員の研修を深めるとともに、小・中の交流や小・小の連携も大切になっています。